

## 第12回

### 子どもを搾取・虐待する児童労働をなくそう

#### ～インドとカンボジアの事例から

パナソニック提供龍谷講座 in 大阪  
～今、あなたに知ってほしい世界の現実～  
2010年度 社会貢献・国際協力入門講座

日時 9月22日(水)午後7時～8時30分  
会場 龍谷大学大阪梅田キャンパス研修室  
講師 甲斐田万智子 認定NPO法人国際子ども権利センター  
代表理事 (<http://www.c-rights.org>)



国際子ども権利センターが支援活動している、インドとカンボジアでの深刻な児童労働の事例を学びながら、「児童労働を失くすためにわたしたちができることとはなにか」を受講者は話し合いました。

### 世界の児童労働の現状

児童労働とは、義務教育を妨げる労働や、法律で禁止されている18歳未満の危険・有害な労働を指します。現在、世界の子ども(5歳～17歳)の7人に1人、2億1,500万人が労働に従事しています。そのうち、6,500万人がアフリカ、1億1,360万人がアジアにいます。60%の子どもが農林水産業に、26%がサービス業に従事しています。(出典:2010年ILO発表 Accelerating action child labour)

### 苛酷な環境で働かされるインドの子どもたち

インドでは、6,000万人から1億1,500万人が児童労働に従事しています。その内、1,500万人が債務児童労働者です。債務児童労働とは、親が作った借金の肩代わりに子どもが働かされることです。中でも、日本で人気のあるインドシルクが生産されるあらゆる過程において債務児童労働が使われています。インドシルクは日本に限らず、アメリカ、ドイツなどへも沢山輸出されています。消費者であるわたしたちも、児童労働と関わりがあるといえるでしょう。

労働に従事する子どもたちは、苛酷で醜悪な労働環境に置かれています。1日12時間以上、ほぼ休みもなく毎日働かされる上に、賃金の一部あるいは全額が親の借金返済に利用されてしまいます。このような経済搾取に加え、身体的被害も被っています。機械から出る煙や排気ガスを吸ってしまい慢性の気管支炎や喘息に悩まされたり、熱湯を使う作業のため火傷し、皮がむけて感染症になったりしています。また長時間睡眠が取れない環境にあり、少しでも怠けると身体的や性的、また言葉の暴力を受けている、という現状です。

### 児童労働が減少しない理由とは

債務児童労働の問題と貧困は切り離せません。貧困家庭では、お金に困ると雇用主に借金をします。すると、子どもは借金返済のためにその職場で働くこととなります。また、社会福祉が不十分であり、そうした子どもは学校へ通えず、学力を得ることが困難で、成人してからも雇用されず貧困から脱することができない、という悪循環が生じます。

インドでは1990年代、児童労働に反対する風潮が広まり、1996年には雇用主に対し、最高裁判所による画期的な判決も出ました。しかし、現実よりはるかに少ないケースしか起訴されず、有罪判決となった雇用主もわずかです。債務児童労働を失くすことへの大きな障害は、それが違法であるという認識が人々から欠如していることです。州政府までもが、債務児童労働の存在を否定しています。問題解決のためには、児童労働をなくそうという政府の意思と、国民が問題意識を持つことが必要です。インドには、債務児童労働者のための学校や児童労働を禁止する法律も存在します。しかし、「低カーストの子どもが債務のために搾取されても当然だ」という認識が社会全体にあるのです。その認識を変えるためには、国際的圧力が欠かせません。

国際子ども権利センターは、以下のインドのNGOへの支援を通じて児童労働問題の解決に向け取り組んできました。

1 : CWC(Concerned for Working Children1 - 働く子供を支援する会) <http://www.workingchild.org/>

2 : バタフライズ

<http://www.butterflieschildrights.org/home.asp>

## カンボジアでの危険な児童労働

カンボジアでは、7歳から14歳の子ども半分以上(140万人以上)が経済活動に、7歳から17歳の約4割(150万人)が児童労働に従事しています。就業最低年齢(12歳以下)で経済活動に従事している人数は75万人以上です。

貧困による児童労働と教育は深く関わっています。学校に入学するはずの年齢である6歳児の33%が入学しておらず、また学校に通い始めた子どもも、働いているが故にすぐにドロップアウトしてしまいます。また15歳から17歳の83%が活発に経済活動に従事しており、その年齢層の子ども半数しか学校に通っていません。

(出典: Understanding Children's Work Project, Children's work in Cambodia: a challenge for growth and poverty reduction, 2006)

首都プノンペンなどの建設ラッシュによって需要が高まり、レンガ工場における児童労働が増加しています。レンガ工場働く子どもの74%は、学校に通っていません。レンガ工場での作業は非常に危険ですが、大抵の子どもは手袋やヘルメットなどの安全防具を着用しません。腕が切断されるような大怪我を負う場合も、工場主はその治療代を払うことはありません。問題は、こうしたことに対し、国が雇用主の処罰を行っていないことです。

(出典: Child labor surges with building boom, Phnom Penh Post 2008年5月16-29日号)

## 深刻な子どもの性的搾取

カンボジアは「ペドファイル(ここでは子どもを性的搾取する人という意味)にとって天国だ」とまでいわれています。非常に多くの子どもたちが買春宿や、カラオケ、マッサージ、食堂などの多様な場所で性的搾取の被害にあっています。加えて、斡旋業者がホテルで子どもたちを監禁状態にし、性的サービスに従事させています。処女との性交を目的にカンボジアに来て、そういった場所で800-4,000USドル支払う外国人が多いのです。その多くはアジア人だといわれています。セックスツーリストの存在がカンボジアの性的搾取の被害が深刻化する原因の一つとなっています。残念なことには、子どもたちを買春したりポルノ撮影したりする人のなかには、日本人旅行者も含まれています。過去には、子どもを性的搾取した日本人が逮捕されカンボジアの新聞の一面に載る、ということもありました。

## カンボジアの児童労働をなくすには

甲斐田さんは、児童労働をなくすために考えられることを3点挙げられました。

1. 子どもの権利教育: カンボジアの子どもたちの多くは、自分たちは貧困家庭に生まれたから、教育を受ける権利がないと思い込んでいる。そのような子どもたちに、子どもには教育を受ける権利、児童労働から守られる権利があることを伝え、「出稼ぎに行きたくない」と親や社会に主張していけるようにすることが重要
2. 貧困対策: 収入向上支援により子どもたちが学校に行けるようにすること
3. 社会が子どもの権利について意識し、責任を感じるようにすること

## わたしたちにできることは

まず、カンボジアへの旅行者にできることの一つは、乗り物(バイクタクシー、トゥクトゥク)、宿泊所(ホテル、ゲストハウス)、レストランなどを利用する際、子ども(ストリートチルドレン)を守る約束をしたメンバーを利用することです。子どもを性的搾取する目的の旅行者を拒否し、通報することを了解した人々は、認証を持っています。そうしたメンバーを雑誌などで宣伝することによって、むしろ彼らの収入が上がるようにしています。もう一つ重要なことは、路上で働く子どもから物を買わない、お金をあげないことです。こうした行動をとる限り、子どもの方が稼ぐことになり、親から子どもは働かされ続けます。その代わりに、わたしたちは親が作った商品を買うことで子どもを支援することができます。インドシルクを購入する際に、生産過程で児童労働を利用していないかを確認すること、インドやカンボジアの児童労働や子どもの権利について知り、周りに伝えること、NGOを通して子どもたちの解放、教育を支援することなど、インドやカンボジアの児童労働を失くすために、わたしたちにできることは沢山あります。